

諸禮一統集

起居進退
請取渡
三



和礼儀統留約集

起居進退の節

卷之三 藏書

一 驚おどろかたむけ事 驚おどろをななままと人指ひとさしを引ひちちく右の
 宿しゆくへおおけけけけゆゆりり外がへへささりり指さしをを中ちゆう指さしとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さし
 の間あひだ小こままととみみ爪つめををううれれ指さしをを中ちゆう指さしとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さし
 少すくちちをを背せ中ちゆう指さしにに馬うま背せくくてて右みぎ指さしをを右みぎのの指さし
 髪かみぬぬちちををぬぬきき持もちちををううりりとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さしとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さし
 みみううりりとと二ふた層そうんん指さしをを右みぎのの指さしをを中ちゆう指さしとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さし
 とと二ふた層そうんん指さしをを中ちゆう指さしとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さしとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さし
 少すくちちをを右みぎのの指さしをを中ちゆう指さしとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さしとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さし
 よりよりううりりとと二ふた層そうんん指さしをを中ちゆう指さしとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さしとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さし
 我われ指さしをを中ちゆう指さしとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さしとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さしとと右みぎ指さしをを中ちゆう指さし

尾をまくりひわけ十二枚をえすの以上七層んつるふく
 扱少ちの扱と存とて扱はも何供養の存へより福を
 存とて扱を紙一紙中へさすべし一紙を福の福を
 のべふこのまを垂へつけ存とて押へ扱中一紙を何
 養を存とてあさのまをえたててまをまわげ能
 ぶし紙を養のうしろね扱を扱中一紙をへ
 ぞり扱と存の存へなげう多層より印へ扱のま
 りより扱として扱をたの扱ふわけ少ちを七層ん
 たりと紙よりつるひとしを何太力扱紙を紙に
 養をの右れ扱を紙へ一養を少ちを扱あぐり
 ぶとらう少ちを背中へはしした力扱紙を扱あぐり
 養のより太力を右の扱を養少ちを養あぐり

七層ん前のまくりなとて少ちをさし一太力扱紙紙
 常の扱を扱中一少ちを扱あぐり多層つる以上
 ぶし紙を養を紙に作らう少ちをさし一人の及
 より福のうまね扱を紙を紙にやうまね
 養をさし一又少ちをぬさし右へより少ちの扱紙
 扱を紙をさし一一人福をさしたよりあさ
 少ちをえさしと紙よりつるひ紙を何層紙へ
 扱を紙一紙を養を紙をさし扱養を太力扱紙
 養を又出る付少ちを紙一紙をえさし背中へは
 扱をさし出され何供養の紙一層とて福を紙
 へさすより少ちをぬさしあぐり一層んつるふく
 うひ少ちを存も扱あぐりへさすべし一養太力

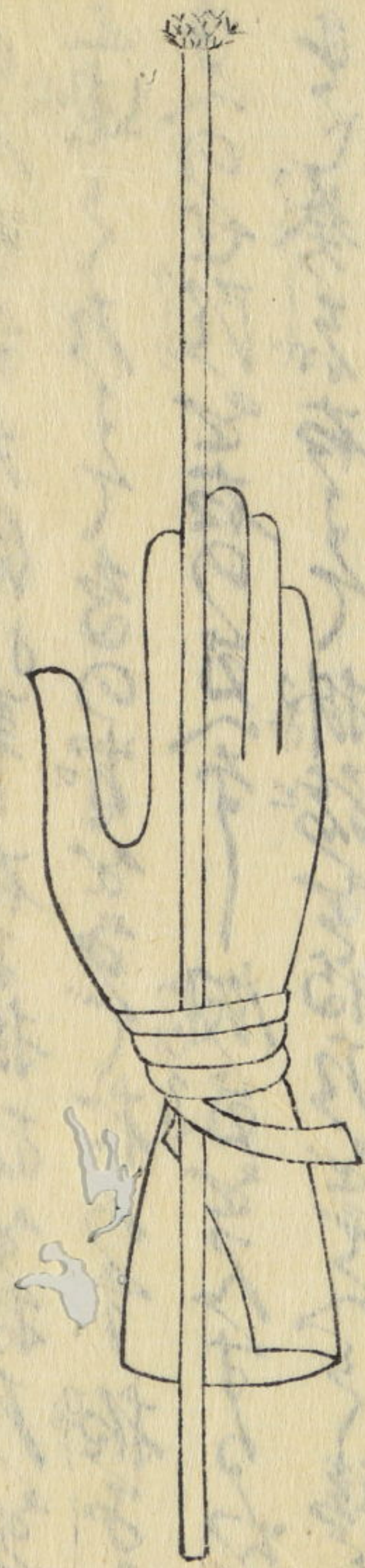
せ酒を酌へ給さしつり指を拵て酒を酌りあつこの
あぐくえたるふ履の尊とくわへへ一指を拵りてま
ゝるへ家帯のつとをへ一りつとを拵りて下るを
まゝののし尊の前後に拵りてまゝく尊の前後をへけ

下尊のうしろを拵りぬそのあり
一昨尊より左方此事一既をゆひのさねのむへへ一後を
よへして左のさますへ右より左方お紙を拵りあつし
て左方と右の指を臺に上述べ尊の既れ我へお
紙を拵り紙一はまも拵りあつこのりつりあつと左方
指を臺を拵りてさねのりゆへへり尊の既の紙を
ぬき紙よりり紙一をよへり
一昨尊より左方解宗のつとをへへはさのりあつて

うろ指を拵りお紙を拵りて拵りあつこのりゆへへり

尊ゆへけ尊のあり

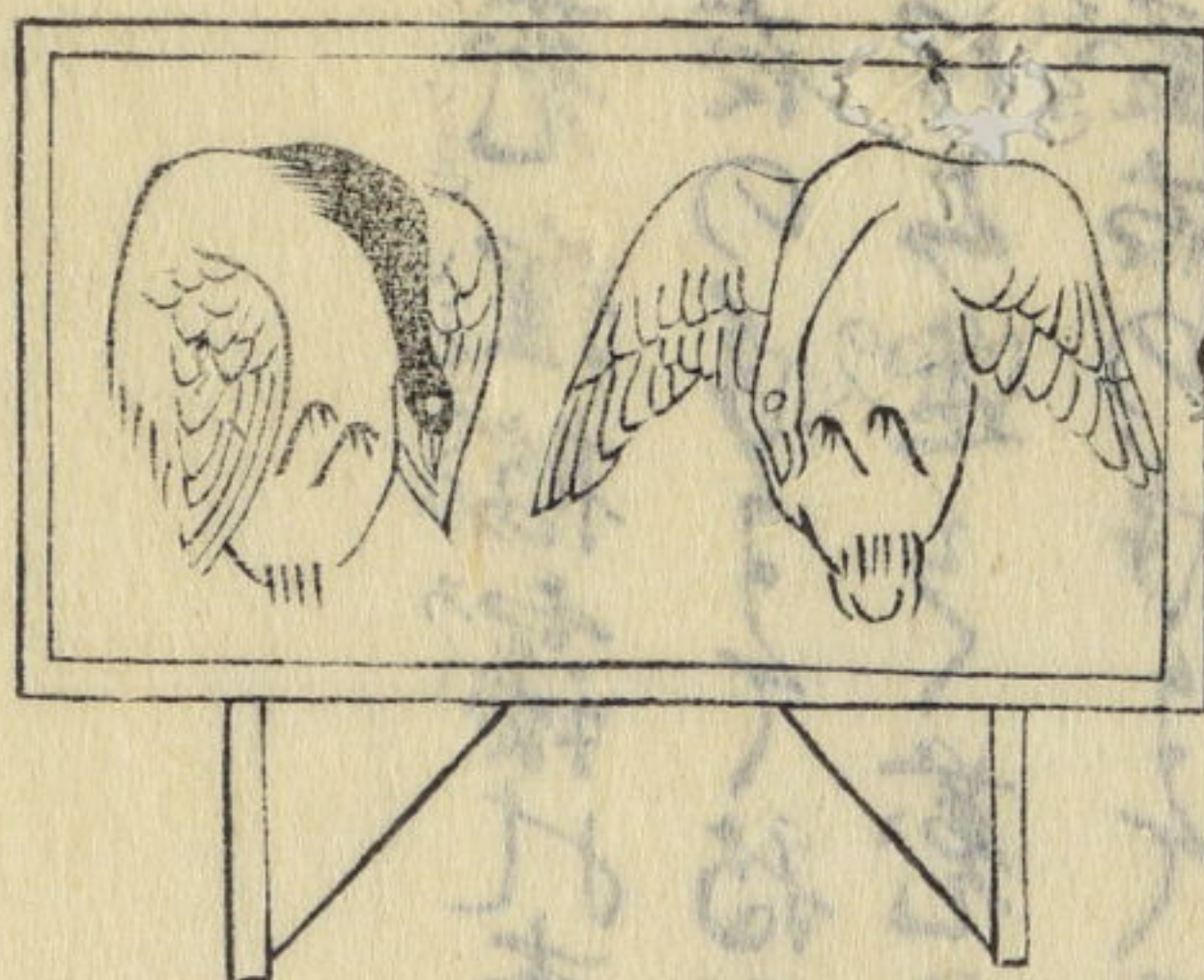
大尊集式尺三寸指ハ式尺九寸二分



一尊の大尊れ事一尊の背を行まつけ拵りあつする
紙を拵りひ拵り上はへり何事一白紙は拵りあつする
お紙を拵り何事一尊のさねを拵りあつする

其の難位命と此礼中そのまゝ多のそをへり
 ありて我を我極意へ目撃し何家都のこれ
 各人おて式礼中い奇とよの時各人あぐり多を指上
 して結丸なりて此津礼極意中し術をりはよし
 本意の厚物結丸は此奉右子掛結を初たをり
 けと述くたよて多の背をさで初めず掛丸は
 のまへのせ段を右のまへへ一初めと入すりわぬ
 海をい奏意ありて掛結を初たをへり結丸は
 多のまへへ一初めと入すりわぬ
 掛子小たのまへのせ段を右へは初めと入すり
 掛丸はまゝお出津月小甲けい初めと入すり
 多へ一初めと入すりわぬ

してそのまゝつる不固結いりまを懸る



意を懸る三月の鳥考疑ゆへ我右御前の
 内た之腹を去りて段を右羽の内へ入る形を
 ひくくへ一初めと入すりわぬ
 の内へ入る形を去りて段の内へ初めと入すり
 此内たより後を去りて段を右羽の内へ
 入る形を去りて段の内へ初めと入すり
 段を右羽の内へ入る形をひくくよりい結丸の
 後振へ懸三月の初めと入すり



鷹の鷹



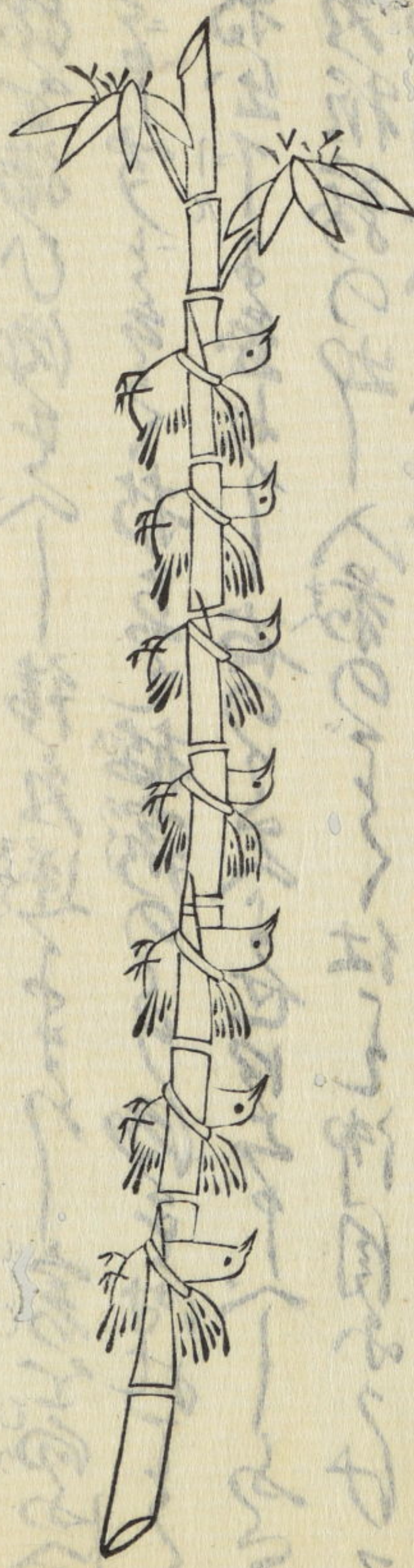
鷹の雛

和礼要約集卷之三

四

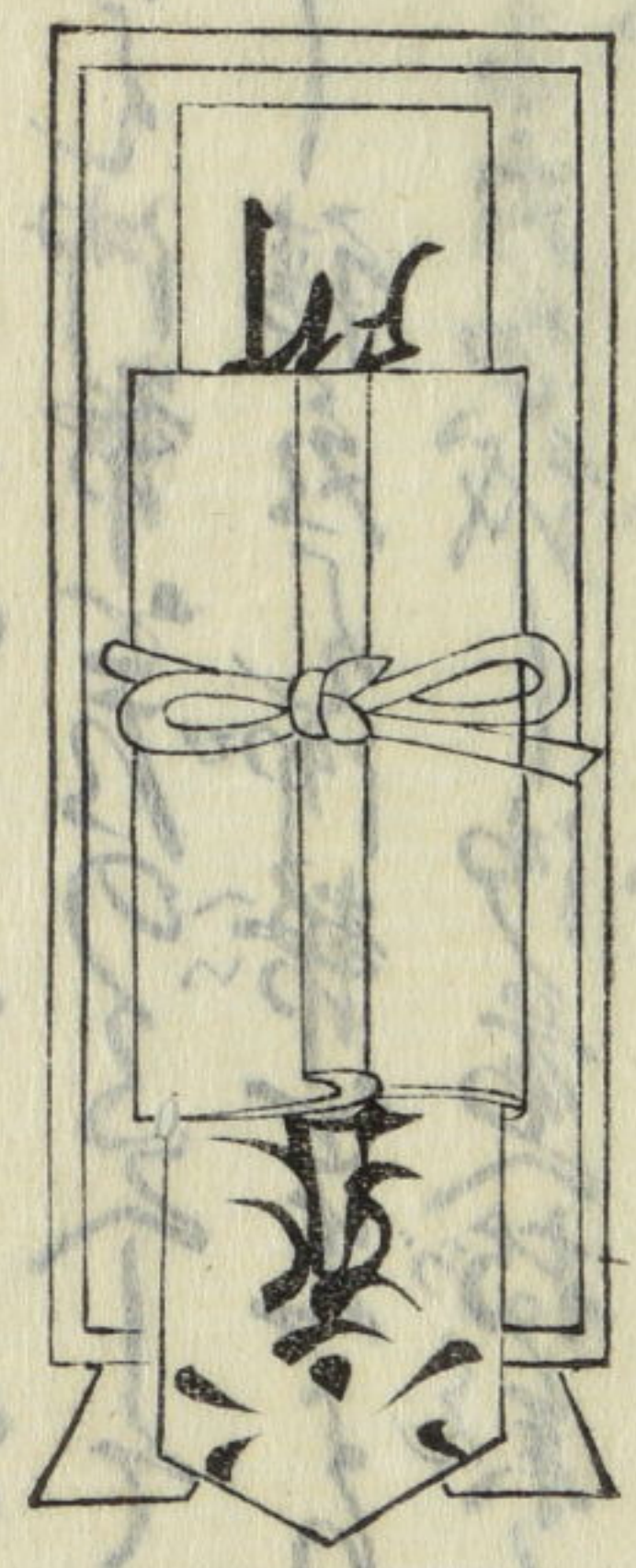
一 筥の竿もれ幸しと云みくろる竿の中やどを右よ
 おたを竿の中へそへおりのたのちどつさけよ上とてた
 へ丸垂し右を竿の中へそへはををり移れ右
 まのちたをつさけしとてたよおろ右を竿の中
 へそへそへへし一極家のつら右よおたをつさけよ上を
 かり九つ七つと一棒と云一と云みくろあつし竹
 の末をきれたより一刀よそきを二枝やど付て
 幸よりあすあまし一本のあへさうひちうひし切
 かけ既と解ぐいと上へと云み洞と尾を下へし
 半のゆひして踏なりしおりのちのちの本に
 たるむし本の幸より下とせすあまし一と云の
 右より一刀よそくへし又薄一本よとたひちひ

小たまみ指り付くろは筥野より垂れ
 知べし一入黄航し筥のちりそくく人もそのか
 小る竿よと云みくろのちのち



一 筥の穂もれ幸しと云みくろる竿の中やどを右よ
 おたを竿の中へそへおりのたのちどつさけよ上とてた
 へ丸垂し右を竿の中へそへはををり移れ右
 まのちたをつさけしとてたよおろ右を竿の中
 へそへそへへし一極家のつら右よおたをつさけよ上を
 かり九つ七つと一棒と云一と云みくろあつし竹
 の末をきれたより一刀よそきを二枝やど付て
 幸よりあすあまし一本のあへさうひちうひし切
 かけ既と解ぐいと上へと云み洞と尾を下へし
 半のゆひして踏なりしおりのちのちの本に
 たるむし本の幸より下とせすあまし一と云の
 右より一刀よそくへし又薄一本よとたひちひ

中の紙戴し下りりく積る柄の本れ柄を打付け
てふあましき乞の積る敷の付れるし積る敷の
一 市松守指箱れ事おう屋さうふまへん字匠紙
我前よほし積る積るむけんまよへん字匠紙
此洗糸包うるも何積る

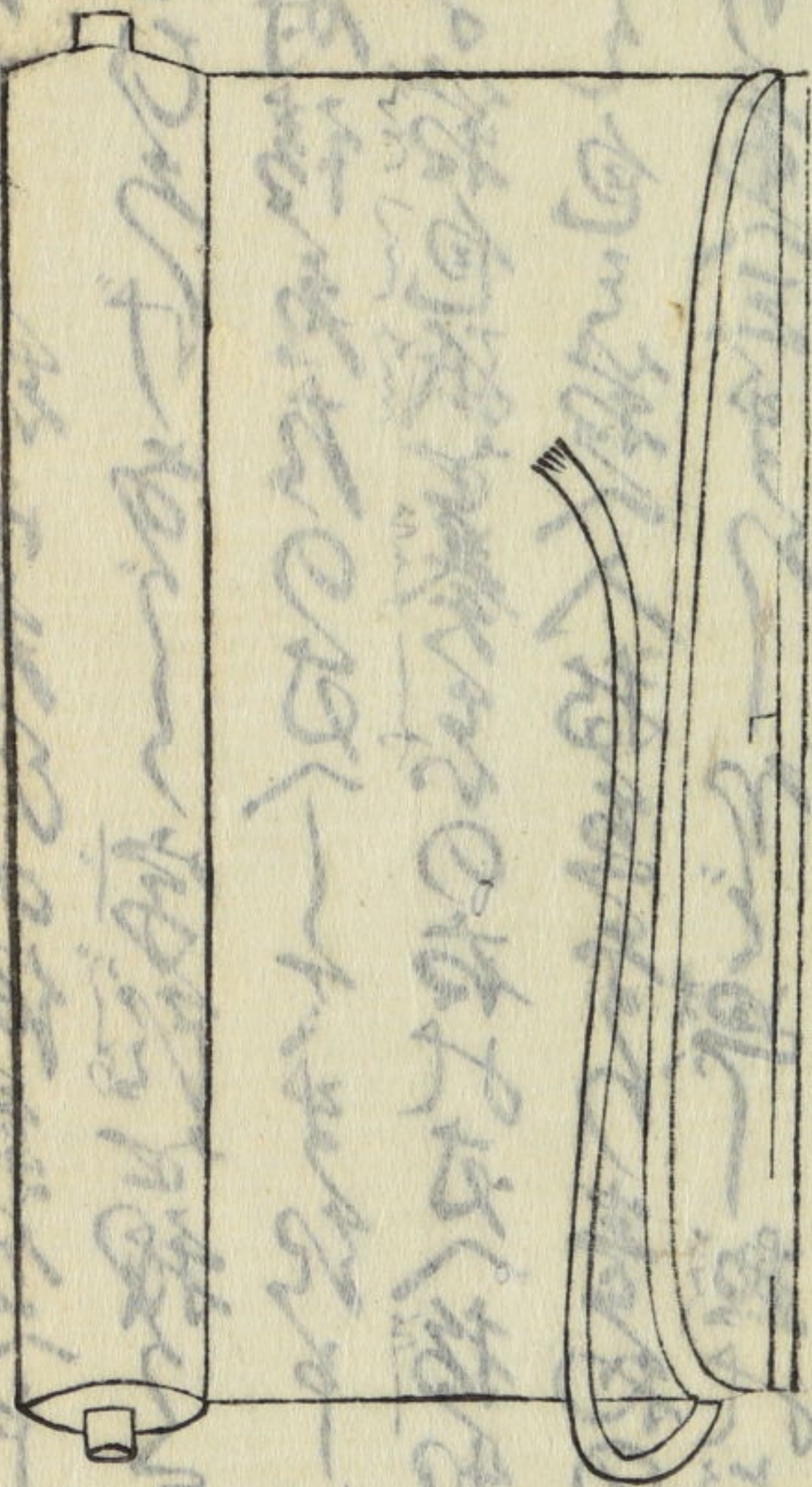
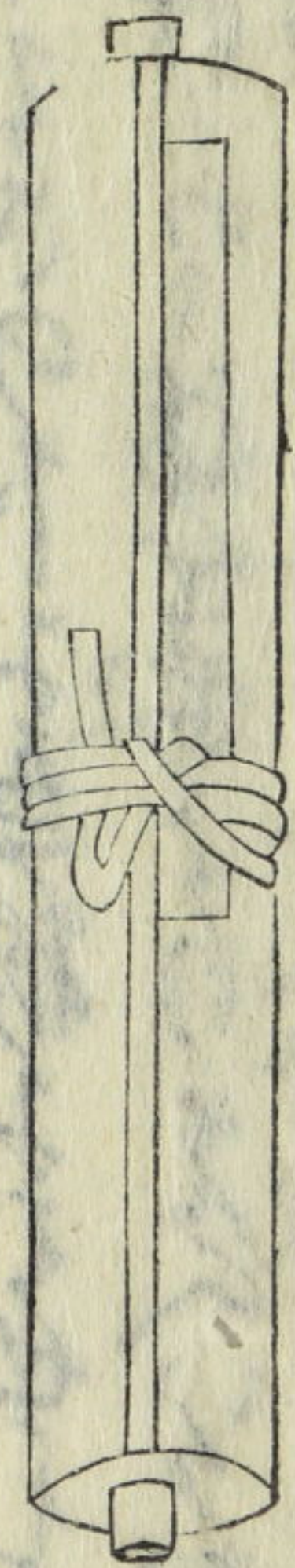


指箱 四方

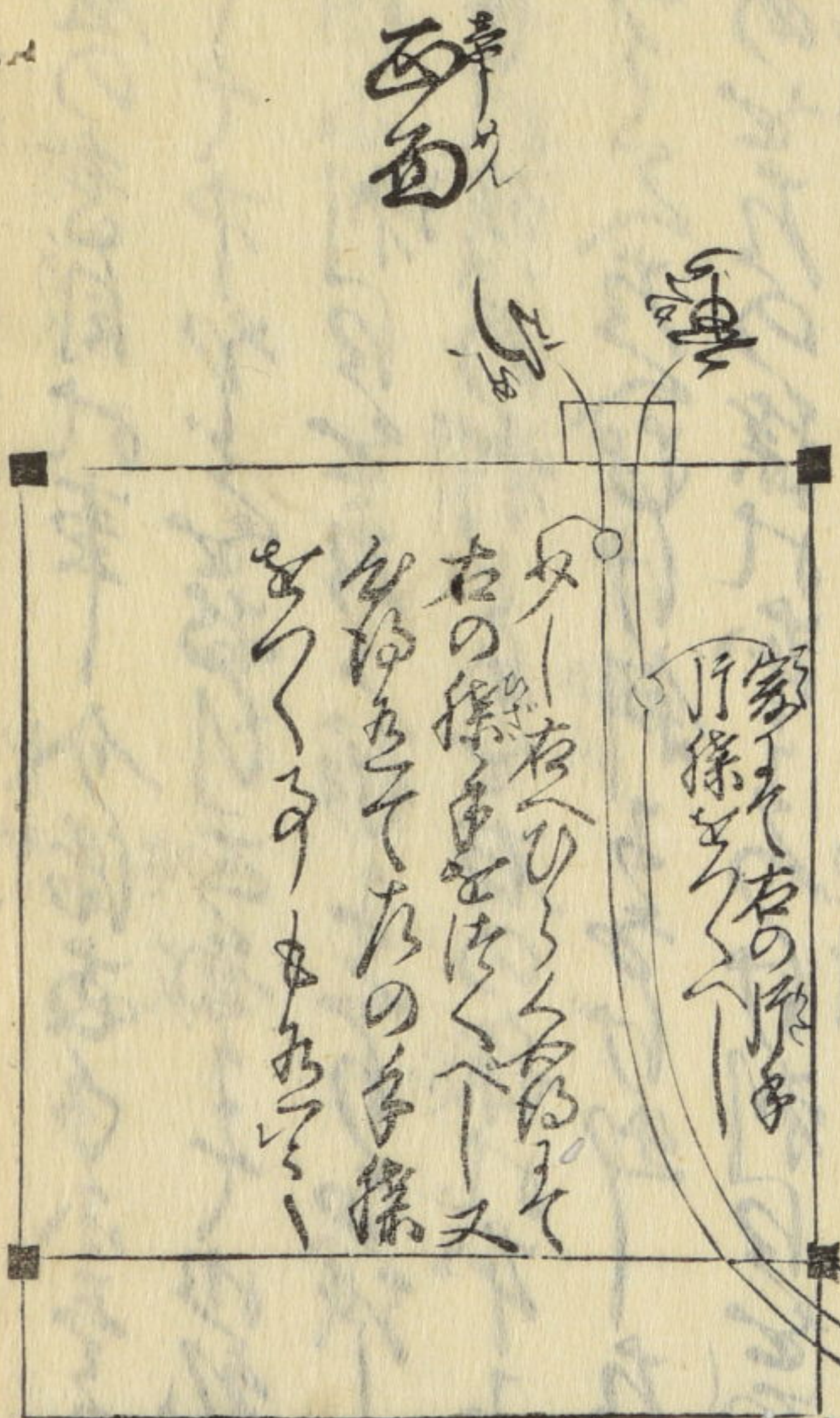
一 抽物れ事 若よ入抽り箱より巻物を巻かす
とと紙ひらげ紙と紙より巻物付く前より

色ひらき一割の力紙の何集るへり紙動かし
中へんひらげあがり字匠を積る入抽り
後を対積る方のおへんてま紙り内よん巻物
そ内子箱包紙を巻物のおれへ抽出し巻へ
またん包を巻へ入抽りする巻物の紙と巻紙
先より巻へ三まり一巻紙より下へ
まき一まきの下よん巻紙を巻く巻物
ひらげらる積る前より先へん紙と巻物の
紙巻るんひらげん又巻紙の巻物巻紙よ入る
巻物の巻物へ巻目のお積る巻物積る巻物
まよへん巻物の何の中巻物中巻物巻物巻物
り先下巻物巻物巻物巻物巻物巻物巻物

も中あて積み下も巻つ礼して扱き扱家のより
内前へ出下も至度蓋を積み下り少押入る積み下
まさらは上を下りお互の巻をまれば巻右の巻右の巻



一御能初代事或くの御能初は
御乃白所もまき初もたき
か小ぶくゆをり家本の様樂
は何も勿備右の巻りさるへ



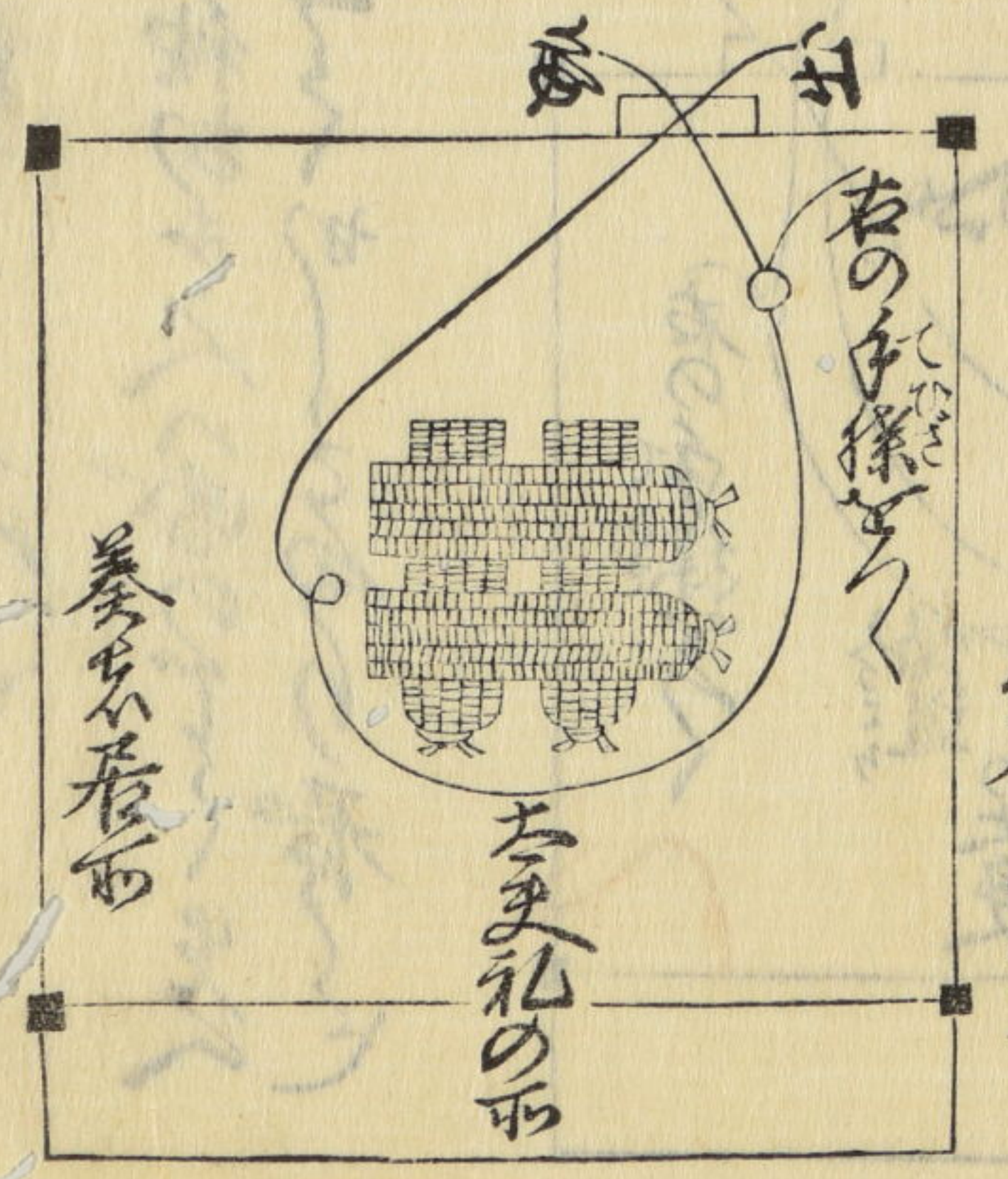
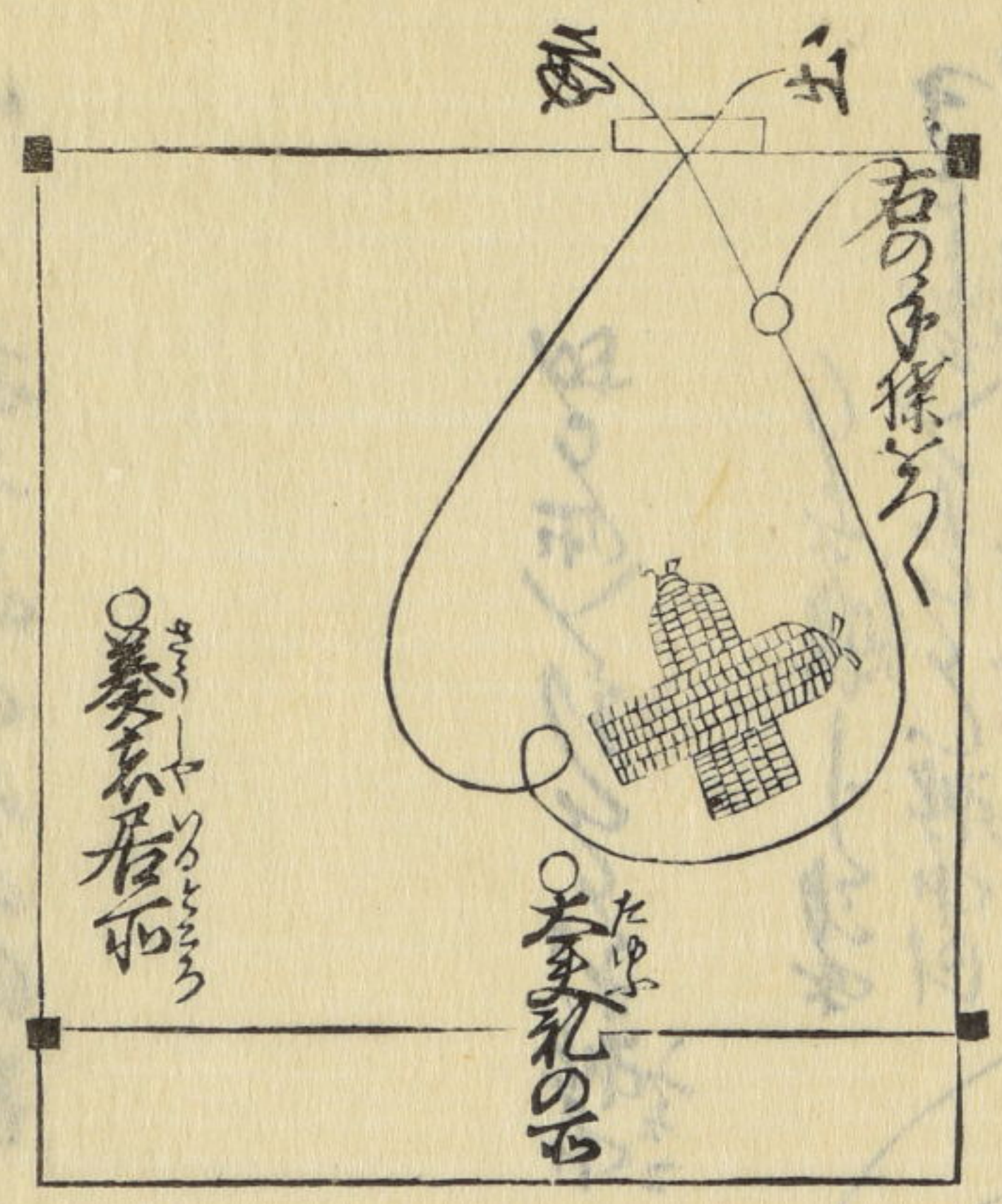
西面
家本右の巻手
右の巻手はくへり又
をゆきてたの巻手
をくへりもあて

家本の巻手

一 祭巻の巻目此奉一介満由小を考つて判空
先へして中やどをおり西面よりして北礼を中より
さる内小利口を考へ振よりを紙一君を
右の手は強乃利口を考へ右の採れ本よりつけ利口を
西面のこへ方へむけ斜まきげ出—左の右は強の
利口を考へ左の採れ本よりつけ利口を西面のこへ方へ
むけ斜まきげ出—十文字より考へ何考へ
てとばご—を更出で神祀や利口を考へ左の右は強
を紙一由より考へて載り入庫—強は強より入へ
一 祭巻の巻目此奉一介八万延の時を考へむけの
神を二つて方より十人して出—十文字より考へ
出へ—を強へ先方を考へ上より考へかきして十文字

小社大し横糸納りお出の時のごくおありと

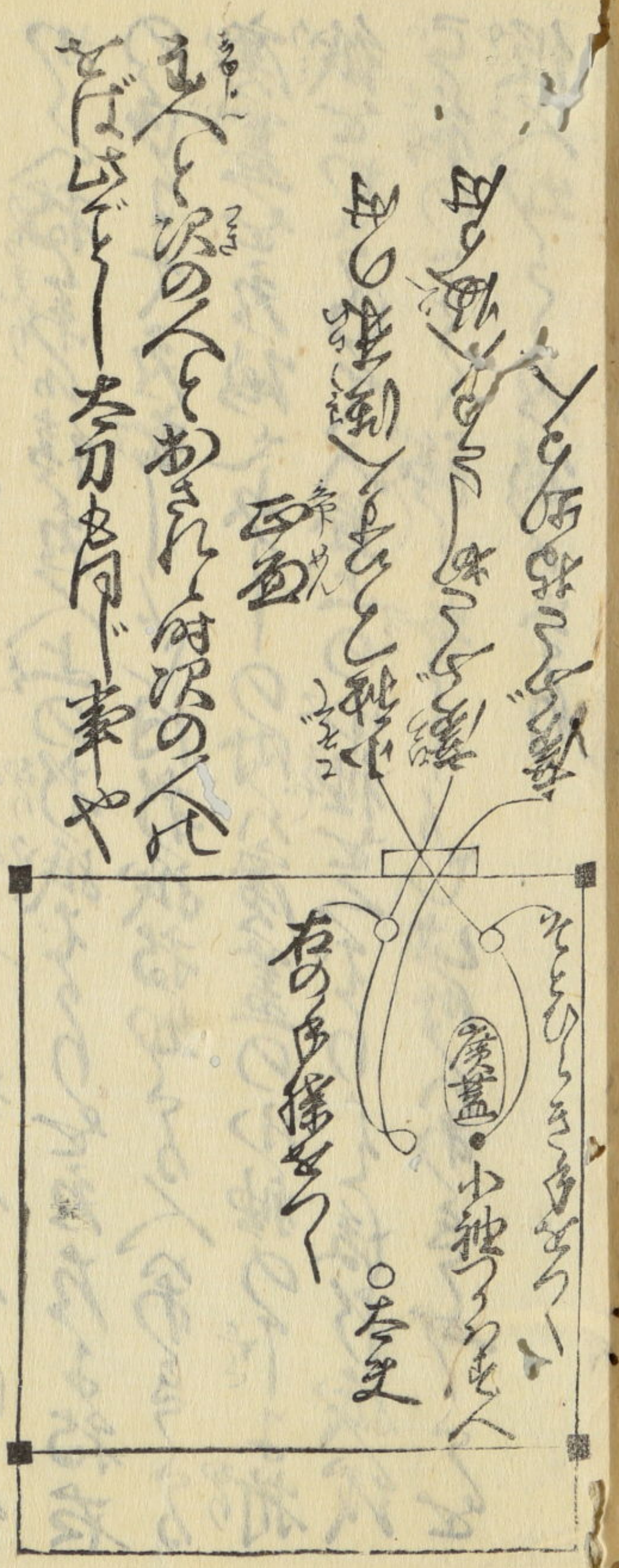
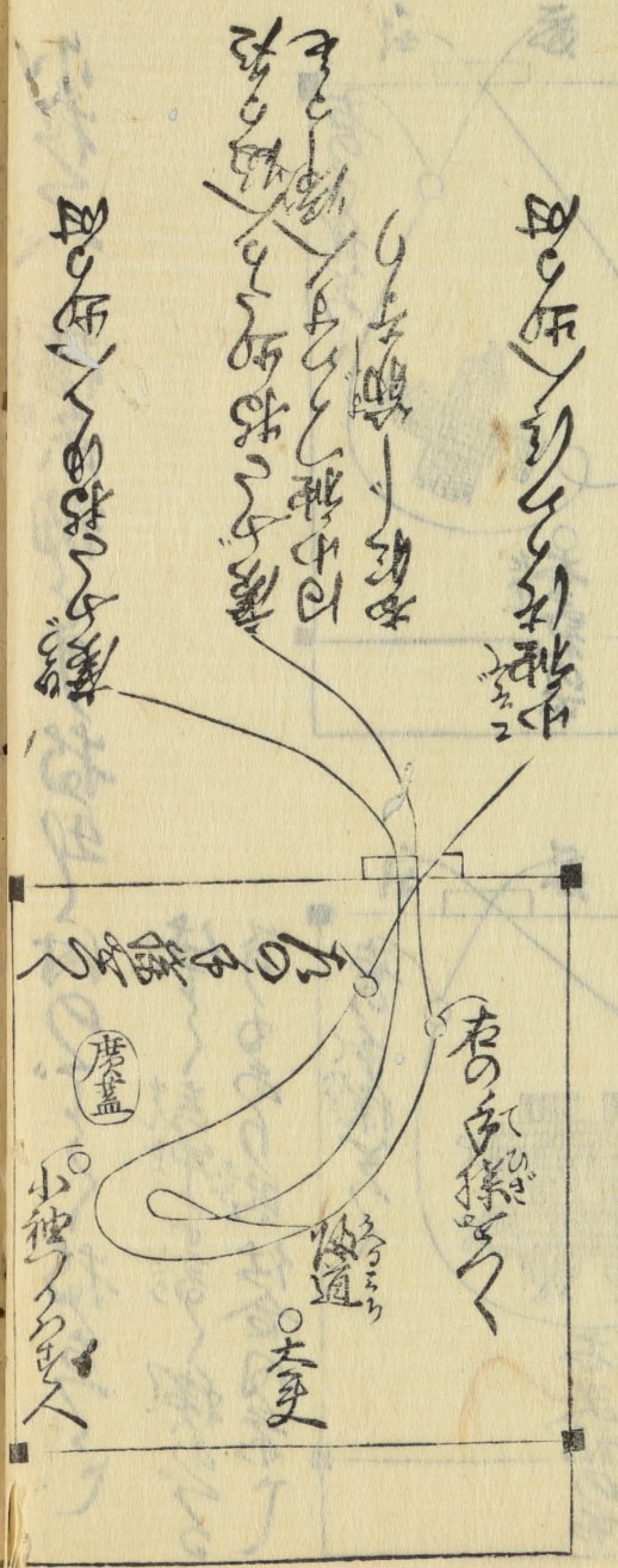
はよく言申すまう横あがる
りゆありおは合日おし



一 祭巻の小神れ奉とごへを考へてみ候は神時
左の神神をのへ方を考へりあげ右の神あり

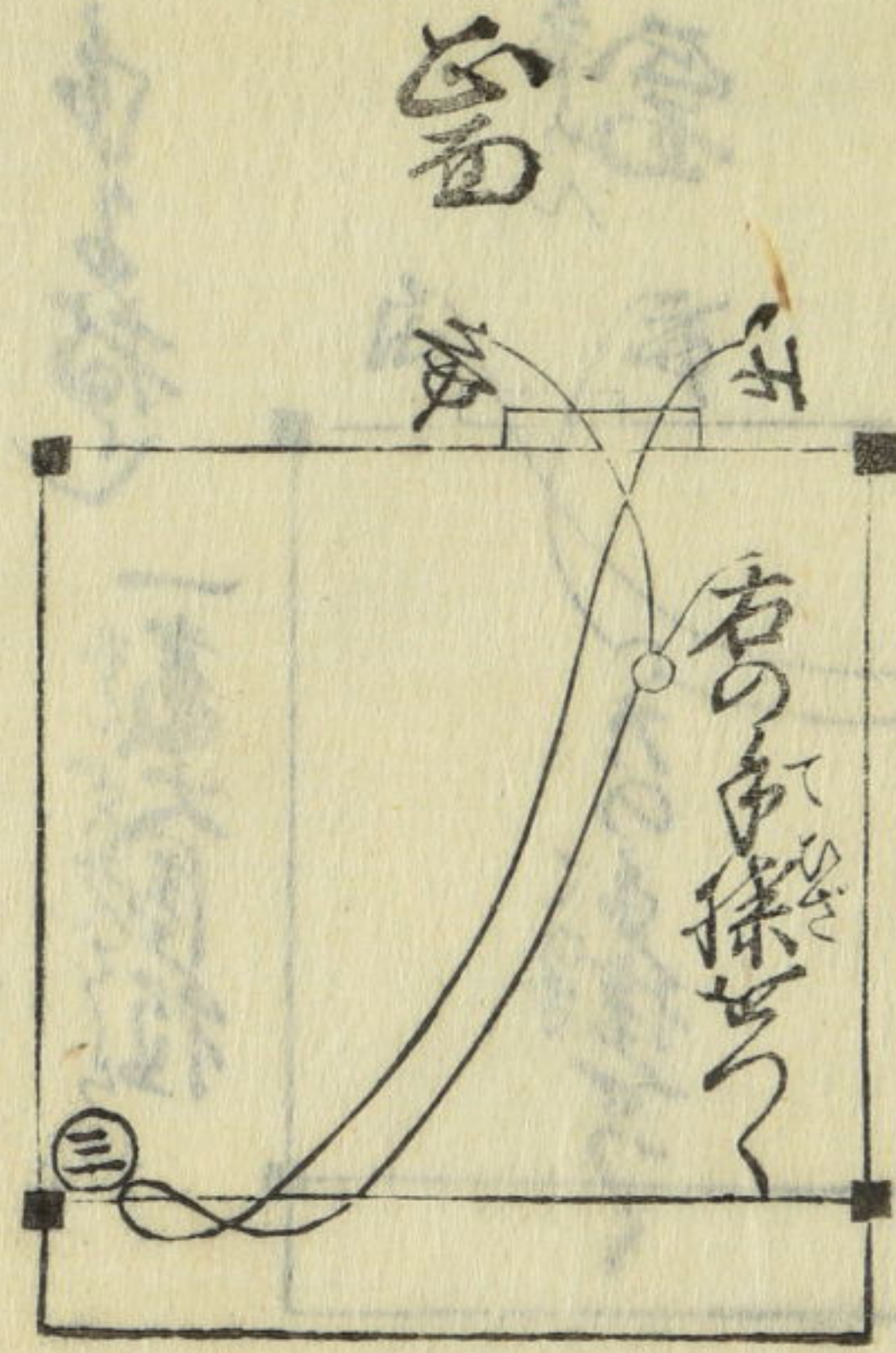
右の手を指月ぐらゝして右の手を指印 神紙
左の手の指掛けは左の手の三本の指を
へー板を更へて右の指を戴きぐらゝして

小神初まへへ鳥のぐらゝして
おしくかゝる有り看と

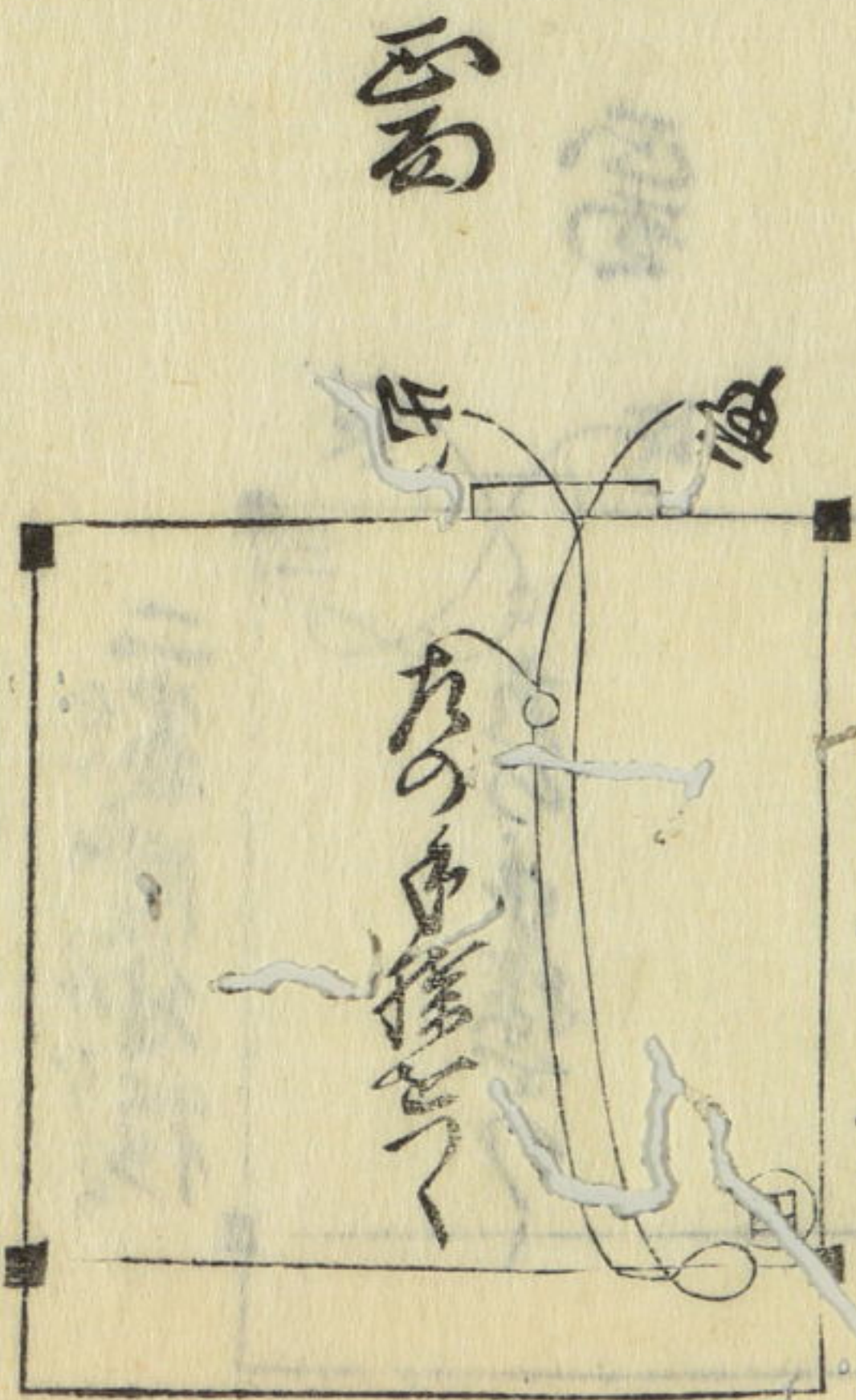


一 儀示のち力れ事お紙を畳よそのち折字の亦を
禱のこゝへすー左力をそらみお紙の合首目せう人
より右のちよまておしりのあへゆき左へ海に
致ぐ後紙指上敷あぐら御をかめ入るなり
一 奉る紙多折紙れ事一 度あふふお紙を敷入る

三少を指す



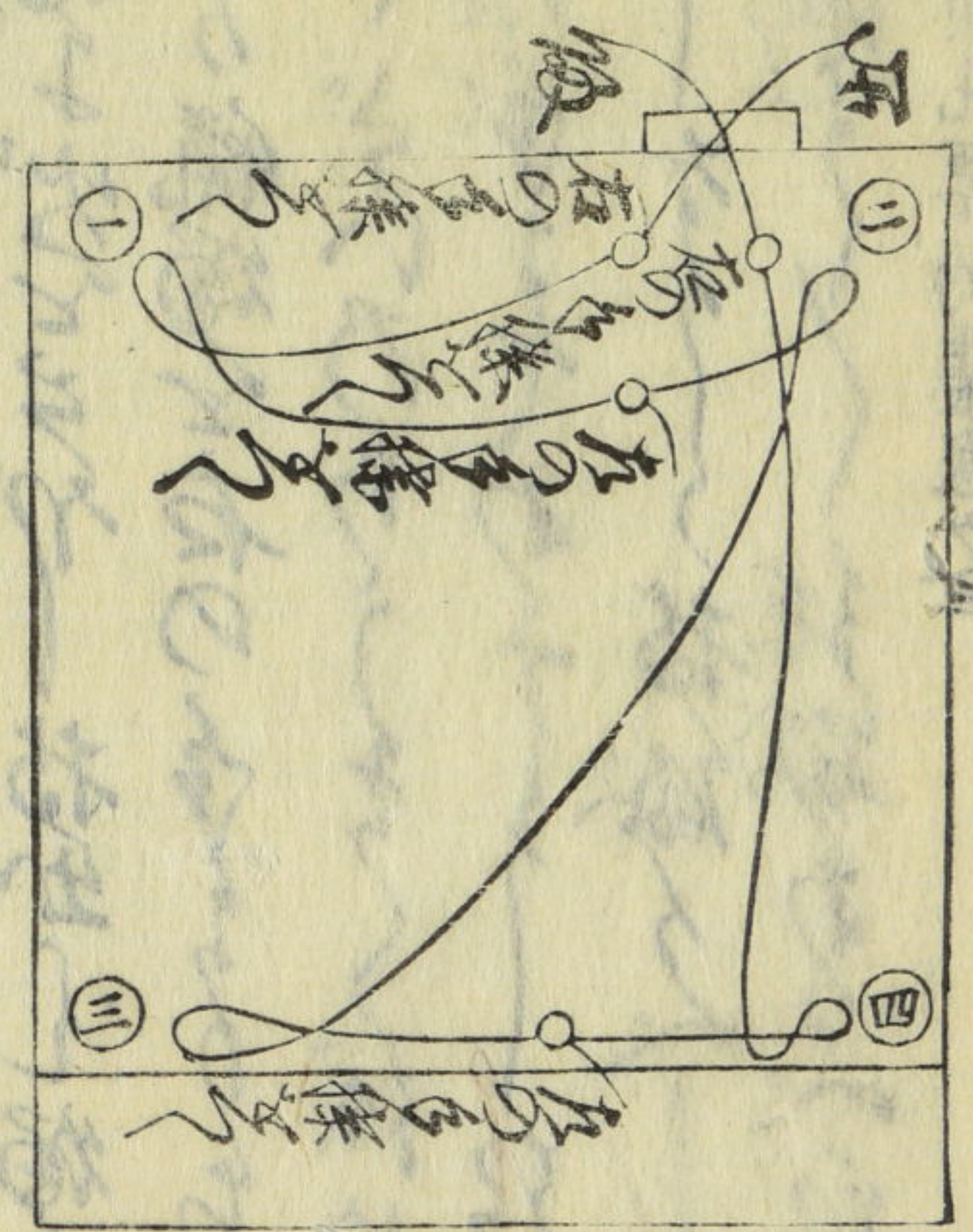
四少を指す



一 兼差の備燭馬及び板止事 四ツの燭差を以て一
 物をかりて五つをかりてのいふて然らば燭差を
 りて五つをかりてのいふて然らば燭差を
 りて五つをかりてのいふて然らば燭差を
 りて五つをかりてのいふて然らば燭差を
 りて五つをかりてのいふて然らば燭差を
 りて五つをかりてのいふて然らば燭差を

おめづりてのいふて然らば燭差を以て一
 四ツともいふて然らば燭差を以て一
 お出とし正面のいふて然らば燭差を以て一
 お出とし正面のいふて然らば燭差を以て一
 つていふて然らば燭差を以て一
 何れいふて然らば燭差を以て一
 先燭子火をさすて然らば燭差を以て一
 お出とし正面のいふて然らば燭差を以て一
 ありていふて然らば燭差を以て一
 右の作をさすて然らば燭差を以て一
 とすて然らば燭差を以て一
 ありていふて然らば燭差を以て一

筆
面



ちんねり二三三と
 以才はてしきなり
 ひくはね手つぎ
 西はまも強家の
 ぶ〜

一引手抽刀れ事 右より右の採みすのこひに
 こそなるま〜く下法とこりり揃しておん音
 へもま〜と云々 向ふの右のこへ極限とナ
 取右のこへ小麻を寄〜形を我ぬへむけて斜小

氣下法を極へ揃うけは極と〜 極ぬり〜の手
 まで下法と鞘の上へ極ぬりの右の手と〜りこ
 の下へ入下法は小揃へひ〜と〜ゆびと〜けた
 ゆびの方へ下法と揃〜り出〜小麻を右へ〜り
 へ紙〜たの手をひろけ浮とのせ上中下下の極
 へはひ敷〜上葉の対たのひちを〜へつけ
 右のひちをわ〜と敷〜又扱扱の〜子極を
 扱〜る〜も〜〜 貝訂章をれを〜へさ
 一印手扱扱れ事 右の手と〜り〜この下と下法
 へ〜に揃〜る〜の手を〜り角の下へ〜扱扱向ふ
 れ右へ扱と〜〜して斜小法を〜極ぬり向ふの右の
 手乃下と扱右の手と〜り〜向ふのたれ手の下〜扱

一 頼入納めし卷へー 振身あておひかり 玉敷

一 振身り無響きしとわりのくごまひ

一本を券をれ事一本をいさ子のさだま折つて振

弟をいふ形のとをきさうげておと振意のうり有り

りちををつとほ上を口へーえげらるを前後

ちと花のくこそくしなむたうーわけは目新

りいなりあまはくむおくこあうく

一 礼儀着真れ事一 後飯ふる各自の利は六百先七

てたのちより持衣のさきつこは同由うけひ書典ハ

刺どの紙四百先へして衣のちより持衣のちよりと

一 振身り下し百と武百をへ持衣の段へ有り持衣

のありなりたるも振身り持衣をいしは振意書の内

一 扇子持衣は後れ事一 二折三折のしやいふ文本をいし

紙引して二重三重まのり一やいのの上とてあしこま

旅のあつりあつりともてふ味もものあつり

一文箱結糸は流石事 舟長あはは 祭本の讀むに我

糸のし 生糸をくはは 是を我前して なる持りた

の掛り糸は上 述く 糸へ力出 糸自らて 結を結

結を糸あけ 結を糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

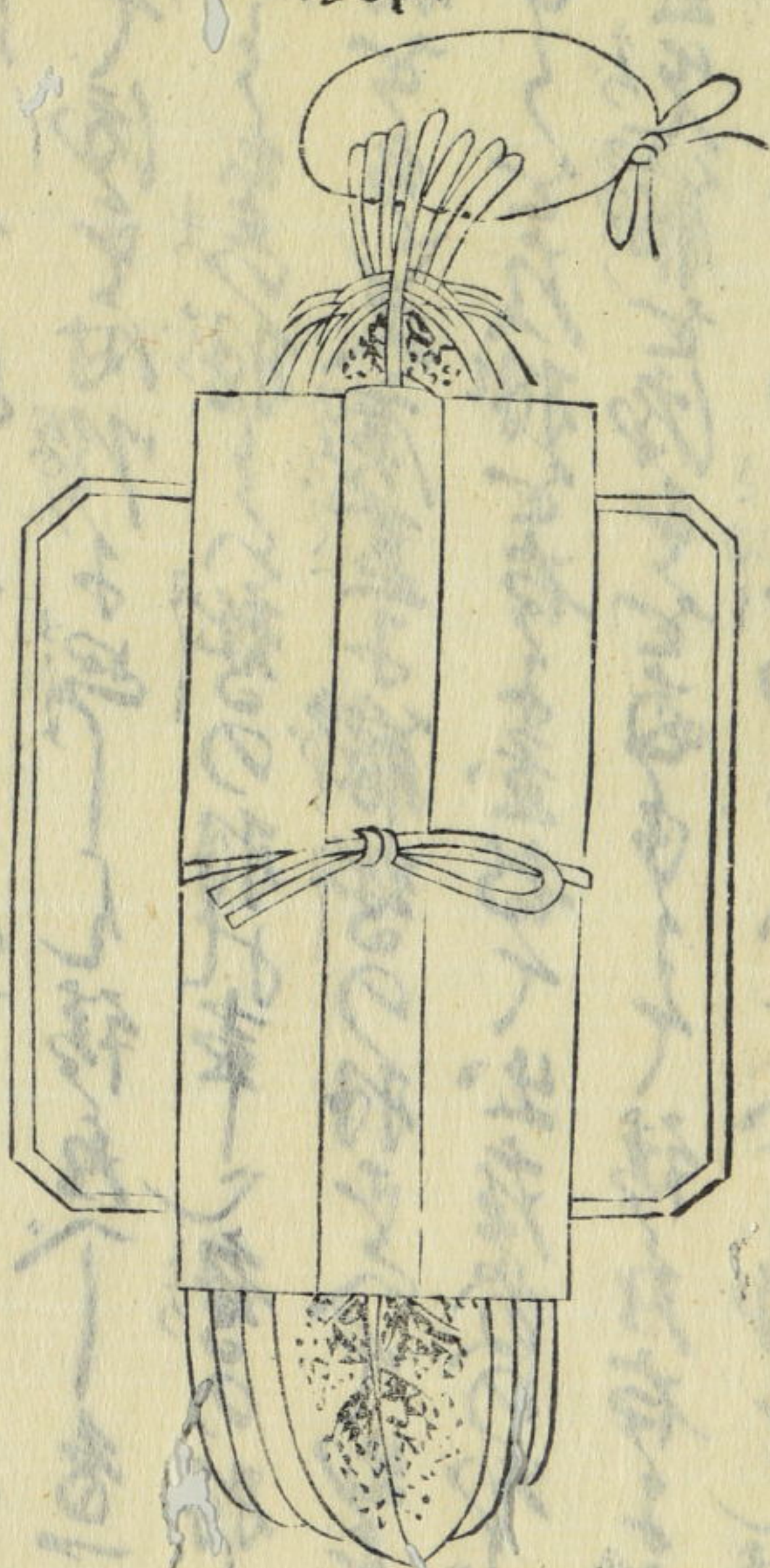
糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ 糸あけ

移るりもあり

柱位懸糸集書之三



興
20
20

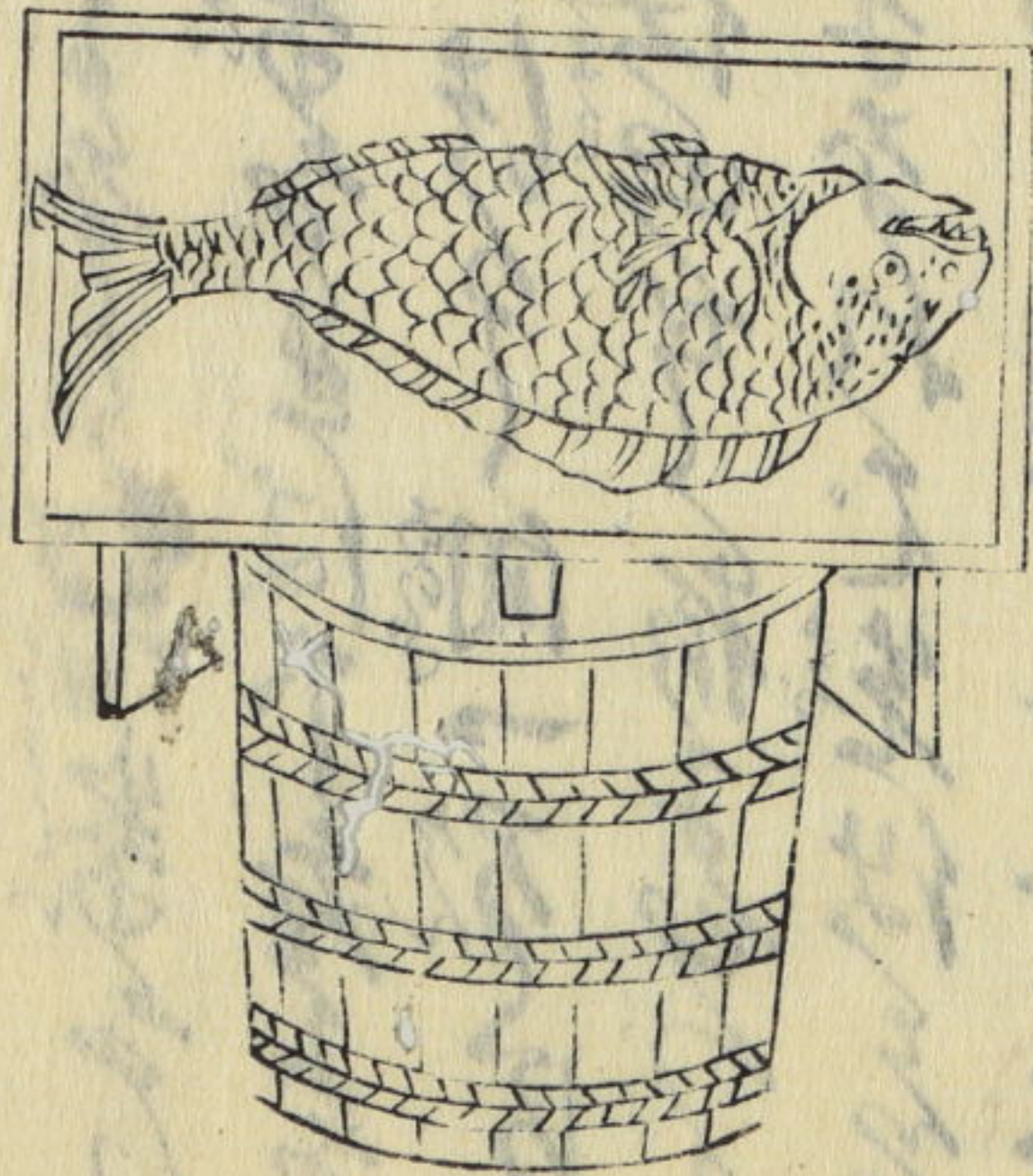
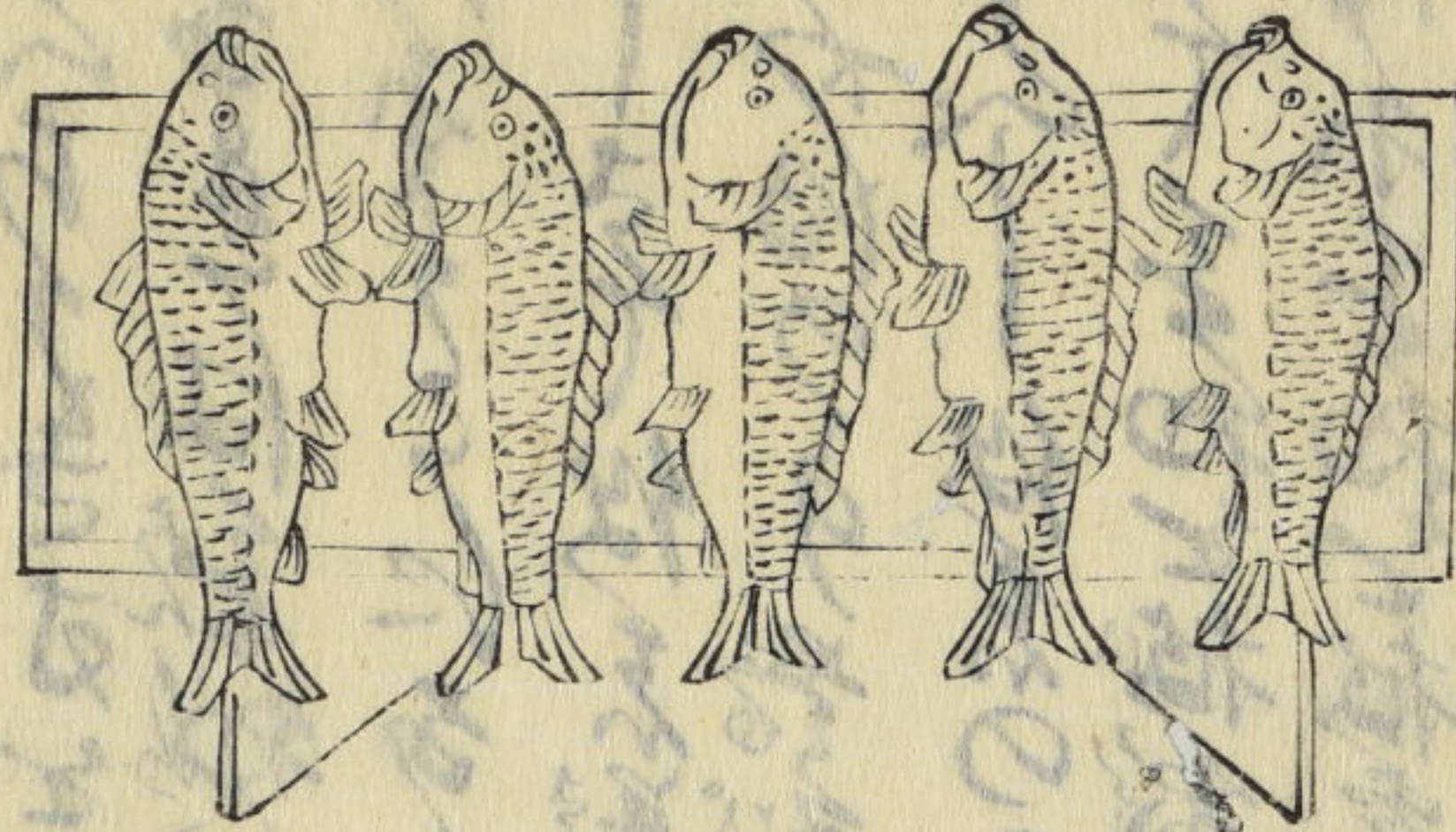
移るり
海方

一箇^袋移るり海方事^袋移るりへして海を^袋移るりあり
ゆびの^袋移るりへして海を^袋移るりあり
海を^袋移るりへして海を^袋移るりあり

おと移るりあり
一箇^袋移るり海方事^袋移るりへして海を^袋移るりあり
ゆびの^袋移るりへして海を^袋移るりあり
海を^袋移るりへして海を^袋移るりあり
おと移るりあり

一橋初継初結光緒ひしはらつとつ光緒ひしはらつとつ

あしてそのうへに折を横にあぐべし一葉の影を
我有あなすし一物をきくへむけしたるあり但し
肯海の極と可なべし一ありしとてうらむをれたを
うへに折しる然むらへきしとて横べし一葉
すしはなをうへに折しあぐべし横ひびりのこの
けし一のうを二横をうへに折むべし一葉ありふ
二横ひびりをうへに折むをうへに折むすべし
折せむらうをうへに折むすべし一葉ありふ
なり横むむ夜の可なりとて折むよつみまら
あそびとて横むむらあり



一俣若養をなれ事一武蔵へわがりしを川邊
下産をえんりり行かへりて後すりの何
上産あるまはを和紙上産もすくへ何事か
中産もよとにあらべ下事かまは下産もよ
下一さて供養養系外はく間一取ら
養をあゆのり養尾よく供養を初する
いすべ一供養の主人上事なれ先供養
俣してを和を極事するあり何事か
と一何れを和を極事すべ一下事なれを和を
中一養く供養をよび出ト又或はの何事
産の下相産の上へ供養を俣むり何事か

お行ぐてふ何ぐりさてすく一わへ何り
産より何りあんのをしらにやせうけ又一人を
俣一や多り産養の剛もそのやねうるべ一さて
或は和をやりの下産の人上産の何目くらひしそ
以養をよのふ上産よりいをよかよりと武蔵三夜
あましく和上産の何さ一養くありむき紙や出を
なりぬけ系あはば二ヶ系や三ヶ系せば下産の
人養もやりのありそはうだりある何事の時ばじ
又養人小産養をよに何事か何事か何事か
て何事か何事かの何事か一但何事か何事か
ぬきたの何事か何事か



